

【日常における美、目に触れるモノの大切さ】



出典 wghost.org

何の変哲もない日常にお気に入りのモノを飾ることで新しい風が吹き、それを見る度に気持ちが高められ、やる気に繋がっていくことがある。そんな時、目に触れるモノの大切さを痛感する。

それを証拠に、私は10年程前、苦しくて八方塞がりの時に、息をのむように美しく繊細で優美な絵画に救われた。

そして、“美しいアート”を日常に取り入れることを自分に許し、“美”をこの手で作り出すことを決めた。

そして同時に、世で言われている美しいものとはどんなものを指すのか、自分はどういったものに美を感じるのかを探るべく、モノ、ヒトの姿かたち、空間、アートなどあらゆるものを意識的に見始め、ショップに限らず住まいなどを含め、どこかの空間に身をおく度にも、

『ここ（これ）の何が好きか？ どうして心地良いのか？

何が嫌なのか？ 自分ならどうするのか？』

を自分自身との対話として続けた。言葉だけではなく、全身で感じながら。

その作業には、時には言葉にならない歯がゆさもあつたけれど、いつも決まって、自分にとって良いものや心地良いものは《自然と呼吸が深くなるもの》だった。

だから私は、今でも仕上がった自分の作品を客観的に俯瞰して見ることを心がけ、必ずその時の《呼吸》にフォーカスしてみることにしている。

今後もしかしたら、心境や環境の変化により、作風がガラッと変わることもあるかもしれない。しかし、どこかに美しさを残し、《作品を目の前にした時、自然と呼吸が深くなるモノ》をつくり続けていきたいと思っている。

(2015.7.6 橘美羽)